

通訳者の付加価値 — 現場の通訳者の報告から

高橋 絹子（関西大学外国語学部・上智大学国際言語情報研究所準所員）

木村 護郎クリストフ（上智大学大学外国語学部）

キーワード：通訳、メリット、付加価値、コミュニケーションの調整

本発表では通訳者が、通訳サービスを利用する依頼者（以下、クライアント）に提供していると思われる「付加価値」について調査を行った結果を報告する。本研究においては、役割論を越えて「通訳（者）とは何か？」という大枠の研究課題で調査を行ってきている。すでに「通訳のメリットとデメリット」という調査において、通訳のメリットに関しては発表済み（高橋・木村 2021）であるが、その際、メリットを大別すると「伝わる」こと（コミュニケーション）に関するメリットと「楽しさ」に関するメリットとなった。また通訳者からのみ挙げられたメリットとしては、「コミュニケーションの調整役」としてのメリットがあり、クライアントからのみ挙げられたものとしては、「相互行為」に関するメリットがあった。本研究では、質問を「通訳の付加価値」に絞って新たにインタビューを実施し、その回答の分析を行った。この場合の付加価値の定義は、通訳者自らが「付加価値」としているものをそのまま「付加価値」として扱った。その結果、通訳者自身が「付加価値」であるとして挙げたことは、すでにメリットとして挙げられた訳出行為の際の「伝わる」ことと「コミュニケーションの調整」を中心に、さらに深くただ単に言葉を置き換えるのではない、前述のメリットにさらに「付加される行為」が認められた。

「伝わる」ことに関しては例えば「相手の気持ちを顔やジェスチャーなんかからも読み取る（通訳者B）」といったことや、「細かいニュアンス（通訳者C）」をも伝えるなど、「文化的な背景や会議の趣旨までを考慮に入れ（通訳者A）」また「相手の表情などの非言語情報も利用する」といった「細かい要素に基づく『深い意思疎通』」に努めていることがわかった。また「コミュニケーションの調整」に関しては、メリットで挙げられた怒りなどの感情の緩和に留まらず、例えば、宗教などに関わる質問などの訳に際しては「そういう質問はやはり普通は聞いてはいけないっていうことになっているのでやめたほうがいい（通訳者D）」ということを伝えたり、「そのまま訳してしまうと相手が嫌な気になったりちょっと不愉快になってしまう可能性がある場合には、同じ意味なんだけれどもアジャストする（通訳者E）」というように国情や文化や状況に応じた助言や言語の選択を行うなど言語面においても調整を行っていることも認められた。さらに訳出行為以外にもオンライン通訳の際には、通訳者のITリテラシーや他国の文化や習慣に関する情報提供も付加価値であるという報告もあった。

今回の付加価値の回答を分析すると、少なくとも現時点ではこれらはヒトの通訳にしかできない通訳サービスがあると考えられる。また現場の通訳者はその点にプライドを持って仕事に取り組んでいることが見て取れる。今回の調査はフリーランスの通訳者を対象とした調査であるが、今後は社内のビジネス場面でのみ活躍し、通訳時のクライアントが社内や社外に及ぶこともある社内通訳の場合も分けて考察を続けたい。さらに今後の研究では、通訳者自身が「付加価値」であると思っていることはクライアントにとっても「付加価値」となっているのか、もしそうであれば、このような通訳の「付加価値」がどの程度、一般に知られて

いるのか合わせて調査を行い、通訳者に対する正しい理解の促進に努めたい。

高橋・木村（2021）「異言語間コミュニケーション手段としての通訳のメリットとデメリット
ービジネス通訳の観点からー」関西大学外国語学部『外国語学部紀要』
第25号2021年35～50頁

資料

通訳者5名のインタビューデータ（一部抜粋）

通訳者 A

- ①（二者間のやり取りの）意図を酌めるのはやっぱり機械では無理かなと。それは通訳者の腕の見せどころなのかなという気はしているので、それが人間の通訳者ができる、一つの「付加価値」
(言葉だけではなく意図を組む＝深い意思疎通)
- ② その伝えるっていったところの技量がどれだけ通訳者が持っているか、持ってないかによって、単に言葉が分かったという以上のことがあると思いますので、それをやはり「付加価値」として考えていくべきではないかと。
(言葉だけではなく意図を組む＝深い意思疎通)

通訳者 B

- ③ 通訳は言語変換屋だけでなく、相手の気持ちを顔やジェスチャーなんかからも読み取る仕事もしてるんじゃないのかなというのは常に感じてます。
(非言語を含めて伝える＝深い意思疎通)

通訳者 C

- ④ 弁護士事務所なんて自分で、交渉事の時ですね。弁護士が入って何か交渉をするっていうような時があると思うんですけども、そういうのは受け入れられないとかって通訳が言ったほうが角が立たないっていうのはあるんですよね。自分で言ったらぐさっとほうで言っちゃってまずいって。
(コミュニケーションの調整)(感情面)
- ⑤ やっぱ細かいニュアンスが伝わらないので通訳に言ってほしいとか。あと向こうの言うことも細かいニュアンスが分からないからやってほしいっていうのもあるんですよね。
(ニュアンスを伝える＝深い意思疎通)

通訳者 D

- ⑥ そういう質問はやはり普通は聞いてはいけないっていうことになっているのでやめたほうがいいと思います、ということと言える立場だと思うのでそれは「付加価値」だと思うんですよね。ストレートにぶつけるとコミュニケーションがうまくいかないところを言語以外の要素をサポートする。
(コミュニケーションの調整)(内容面)

通訳者 E

- ⑦ それをそのまま訳しちゃうと向こうはちょっと嫌な気になったりちょっと不愉快になってしまう可能性があるっていうのは自分が分かった時にちょっと言葉を、同じ意味なんだけれどもちょっとアジャストするみたいなところはしますね。
(コミュニケーションの調整)(言語面)